



二〇一九年度 定期総会開催

二松学舎大学

父母会報

平成5年5月10日創刊
令和元年7月31日発行
(第105号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書

二〇一九年五月二十五日
(土) 午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、二〇一九年度二松学舎大学父母会定期総会が開催された。

総会に先立ち、二松学舎大学副学長福島一浩文学部特別招聘教授による「書に親しむ―書という海の一滴から」と題した講演会が行われた。

午後二時四十分、小柴有佳氏の司会により総会が開会され、宮脇正裕父母会長、江藤茂博学長がそれぞれ挨拶をした後、細谷文雄議長により議事に入った。



第一号議案の二〇一八年度事業報告並びに決算については、審議の結果、原案どおり承認された。

第二号議案の二〇一九年度役員選出は、会長に中澤稔氏、続いて会計監査に田中清美氏と由川志織氏が決定した。

第三号議案の二〇一九年度事業計画並びに予算が審議され、それぞれ



原案どおり承認された。

議事終了後、二〇一八年度で役員を退任した宮脇正裕氏、安達香里氏、白根真弓氏、鈴木千晶氏の四名に江藤学長から感謝状と記念品が贈呈され、総会は、終了した。

午後三時三十分から、会場を九段一号館十三階のラウンジに移動し、父母と教職員の懇親会が開催された。



※父母会活動

「二〇一九年度父母会活動について」

父母会会長 中澤 稔

本年度は、平成と令和、二つの元号で活動できる父母会として心に残る年度であります。

会員の皆様、日頃より父母会活動へのご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

五月の定期総会において、予算・事業計画・新役員のご承認をいただき父母会はスタートしました。

総会終了後に、懇親会を開催し、大学・会員相互の連携を図りました。

本年度の主事業の内容は、総会資料をご参照いただきご理解、ご協力をお願いいたします。

「地区別父母懇談会」は、全国十都市で開催されました。

十一月には、学生の祭典であります「創縁祭」では、父母会も無料喫茶室を開設いたしますので、是非お越しいただきお楽しみください。また、十三階ラウンジから

の景色は絶景です。

本年度からは、就職支援活動として就職試験対応講座の支援も加わりました。また、四月から「ライブキャンパス保護者ポータル」が開設されており、お子様の就学状況をご覧いただけますので、活用ください。

父母会は、「学生のため」「大学との連携」「会員相互の親睦」を基本理念とし、会員の皆様方が心を寄せ合う父母会活動となりますように、役員一同邁進して参りますので何卒宜しくお願い致します。

結びに、皆様のご健勝、ご多幸とお子供達の更なる成長を祈念してご挨拶とさせていただきます。一年間宜しくお願い申し上げます。

※新役員紹介 ◆◆◆ 役員に就任して

◆ 齋藤 智子

慌ただしい日常の中、あつという間に大学生、高校生になった息子と娘の姿に、寂しくも愛おしく、そして頼もしくも感じていた今日この頃。

そんな折、伝統ある二松学舎大学で父母会役員を務めさせていただくことになりました。この機会をいただいたことに感謝し、大切に過ごし役員活動に尽力してまいります。どうぞ宜しくお願い致します。

◆ 塩澤 裕加子

本年度から父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

大学の父母会というものは、まったくの未経験でございますが、微力ながら皆さんと一緒に活動させて頂きたいと思っております。

これから四年間、充実した学生生活を送れる様サポートしていきたいと存じます。

先輩方にご指導頂きながら、精一杯務めて参りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

◆ 菅波 久美子

大学に父母会があることに正直驚きましたが、それ以上にまだ子供たちに関わることができるととても嬉しく思いました。

人生において大切な大学生活が楽し

く充実したものになるよう、微力ながらお手伝いさせていただきます。

伝統ある二松学舎大学で皆さまと一緒に子供たちに負けないくらい四年間を楽しみたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

◆ 染井 直人

四月に子供が入学し、二松学舎との縁が始まりました。子供の学ぶ大学に、何らかの形でお手伝いをと考えていたところ、昨秋の創縁祭で会長とお話をする機会があり、父母会活動について知りました。

四年間、様々な事があると思いますが、子供達が豊かな学生生活を送り、成長する様を見つめてゆきたいと思えます。微力ながら皆様のご理解とご指導のもと努めて参りますので、宜しくお願い致します。

◆ 中村 浩子

本年度より、父母会役員を務めさせて頂くことになりました。

分からない事ばかりですが、ご指導頂きながら、また、皆様のお力をお借りして頑張りたいと思います。

歴史と伝統のある学舎で学ばせて頂ける学生達の環境に感謝させて頂くと共に、父母会役員という形でお手伝いさせて頂ける事がありがたく思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

ご あ い さ つ



「日々の取り組み」より

学 長 江藤 茂博

漢学塾の伝統は、学生たちに真面目な気風を与え、一般に評価されてきました。もちろん、伝統だけを誇っても、これからの新しい社会を生き抜く力を与えることにはなりません。本学では、

日頃より本学の教育研究にご理解とご支援いただき感謝申し上げます。より豊かな教育環境を整えられるよう、教職員一同努力しています。狭い教育施設なので、学生たちに窮屈で不自由な思いをさせることも多々ありながら、負け惜しみでもありますが、そこで逆に彼らは譲り合う精神も身につけているようです。また、他大学とは違って、二松学舎は漢学塾として創立した明治十年当時から一四〇年を越えて、同じ場所に学び舎があるというこの伝統も、ぜひ学生たちには体感してもらいたとも思っております。

新しい学科によって、新しい学問領域をカリキュラムに組み込み、従来のカリキュラム構成を一部再構築して、時代に対応したスキルや知識を学ぶことができるようにしています。

また、国際化に関しては、特に文学部については在学生のうち三〇名に一名は外国大学からの留学生という環境にあります。そうした環境を作ったのは、留学は普通のことだという感覚を学生に持たせ、制度を利用して多くの学生に海外の大学で学ばせたいからです。留学に関しては、中国、韓国、台湾をはじめ、英国、カナダ、豪州などに協定校があり、学びたい語学のニーズに対応できる体制を整えています。例えば英語を学びたい場合は、欧米の大学に留学するだけでなく、提携している台湾の大学に留学して、そこで用

意されている英語による講義を受講するのも効果的かもしれません。また、いくつか用意している短期海外語学研修の中には、研修費のうち授業料が無料の短期中国語研修も提携大学よりプログラムが提供されていて、より多くの学生が活用できるようにしています。

本学は学生たちの就職活動にもさまざまな支援を行います。また、早い段階から、学生たちの適性や希望の進路を確認しながら、適切なサポートも実施しています。何かご不安がございましたらいつでも担当部署にご相談ください。私立学校はいわば有志の共同体です。私も教職員や学生はもちろん、ご父母の方々もぜひ二松学舎大学を支える一員として、一層のご協力をいただければと、あいつつを兼ねて、ここにお願する次第です。



「AI時代に対応できる人材の育成のために」

理事長 水戸 英則

本学は一昨年の創立一四〇周年記念式典にて新長期ビジョン「N2030 PLAN」を公表しました。本プランでは育成する人材像を、旧プランを踏襲しつつ2030年の社会環境を意識して再定義し、学力の3要素である『知識・スキル・人格』を三位一体とした教育を行うために必要な教育体制、「2030年型教育体制の構築」と、「二松学舎大学を更に優れた大学へのブランドアップ」を目標として掲げました。遂行に当たってはベンチマーク校（目標校）を数校設定して、ベンチマーク校と本学との差を可視化し、その差が生じている課題を解決することで、目標に到達しようというものです。具体的には「N2030 PLAN」に基づいた「アクションプラン」で、「学生応募倍率」や「就職率」といった

「主要な指標」(KPI Key Performance Indicator) 30指標を選定、各KPIについてベンチマーク校との差がどの程度あるのかを、学内イントラネット・ガールンPCから各部署の教職員が常時視ることができるようにして、目標達成意欲を高める工夫をしています。こうした取り組みは、「アクションプラン年次報告書」(2018年度)に取り纏め、大学HPに公表しています。

また、教育改革の一環として、近年の環境変化に対応した学部学科の改組を行い、2017年4月から文学部の「都市文化デザイン学科」が、2018年4月から国際政治経済学部の「国際政治経営学科」が、新たにスタートし、順調に立ち上がっています。

これらの対応により、大学の志願者数は2年連続して前年度比約2割増加

し、両学部定員倍率5・2倍と過去15年の既往ピークに次ぐ数字となりました。

現在は、AI・IOT・Society5.0時代の到来を控え、激しい変化に柔軟かつ積極的に対応し、時代を乗り越えていく人材を育成するためのカリキュラムの改革に全学を挙げて取り組んでいるところでは、具体的にはAIに代替されない人材育成のため、例え文系でも数理データサイエンスを必須とするなどの改革を検討しております。

先般、かつて本学の舎長として経営を統括した渋澤栄一が新一万円札の肖像となることが公表されました。令和の時代においても、教職員一同全力で課題達成に取り組んで参りますので、皆様方には引き続きご支援・ご協力をお願い致します。



中国文学科

五十嵐 沙 耶

私が二松学舎大学の名前を最初に耳にしたのは、高校三年生の十二月と、非常に遅い時期であった。言語学に興味があり、中でも韓国語を独学で勉強していた私は、大学で韓国語を本格的に学びたいと考えていた。そしてさらに、その言語を活かして海外留学を経験したいとも考えていた。だがしかし、大学で挑戦したい事は決定していたものの、肝心な志望校を決められずにいた。そんな時、当時英語を担当していた先生にその旨を伝えたと、「二松学舎大学はどうだろう。」と、意見をもらった。後に調べてみると、授業展開・学習内容が私の望む形に限りなく近いと感じた。そして何より留学制度が非常に充実している点に驚かされた。志望に至る最大の決め手はここにあるだろう。

合格して入学してみると、授業は想像通りだった。私が一番楽しみにしていた韓国語の授業では、基礎から丁寧に教えてもらえるので、独学では理解が乏しかった部分もしっかり得心することができている。そして私は中国文学科に所属しているため、あらゆる角度から中国について

学べる環境にいる。それは言語であったり、歴史であったり様々だ。毎日新しい事を学べる環境にいれることに、非常に感謝している。

また、私は今、中国語文研究会に所属している。なぜ部活動で中国語を学ぼうと思ったのか。中国語を初めて大学で学ぶことになり、楽しみや期待も大きかったが、同じくらい不安もあった。少しでも自信をつけようと思い入部を決意した。毎回の予習・復習は大変だが、日々仲間と共に勉学に勤しんでいる。励まし合い、切磋琢磨し、言語習得への道を歩んでいきたい。

大学生になり、高校生の頃とは何もかも異なる環境に慣れるのは、少し時間がかかったが、とても充実した生活を送ることができている。初めての講義、新しい友人、先輩、先生、挙げればきりが無いほど様々なことが新鮮さに満ちている。この四年間を通して、社会で貢献できる人間に成長したい。授業に部活動、アルバイトと忙しい毎日だが、それぞれを両立できるように日々精進していきたいと思う。

大学に入学して

「都市文化デザイン学科なるものが新しくできるらしい。秋葉原にラボを構えるらしい。」そんな話を聞いたのは高校一年生の頃だった。既に志望校探しを始めていた私は、秋葉原で学ぶなら無条件で楽しそうだなあ、とぼんやり思うままにオープンキャンパスに足を運んだ。思えばこのときから、私の未来像は描き出され始めたのかもしれない。

私は、過去を学べる財産としての歴史が好きだ。同時に、新しいものをゼロから作り出すことも好きだ。そんな私にとって「新しい学科」というのは、自分で歴史を創っていく、という点で非常に魅力的だった。この学科を、学校と、先生方と、仲間と共に創っていく。いざ入学してみれば、先輩方は積極的に自分の興味に仲間を巻き込んで、プロジェクトとして成立させている。大学の名前を使いながら、社会へアピールしていく。これが、この学科の歴史の創り方か、と感銘を受けた。

また、様々な人に出会い、自身の考え方がじわじわと変わってきたの



都市文化デザイン学科

河野 姫 奈

も事実だ。例えば、当初は卒業論文を書かずに作品制作などで卒業するのがいいなあ、と思っており、この学科なら秋葉原でイベントでも開催したいなあ、などと考えていた。しかし大学の授業を受けていると、論文を書くのも悪くない気がしてきたのだ。研究してもいいかなと思えるテーマが、授業を聞いていると頭に降ってくる。この学科で正解だったなど、その度に実感する。

大学生という身分になった今、学校の勉強だけではなく、アルバイトなどで実社会での経験を積んでいる人も多いだろう。双方で学んだことを自分の糧として、より自分を成長させ、確立させていく。子供と大人の狭間で、学校と社会の狭間で、自分の存在を証明する。素敵な身分だと思ふ。

私は私なりに、学校と社会を行き来しながら、存在を証明している。周りの仲間たちは、そんな私にどんな人間的評価を下すだろうか。



国際政治経済学科

高野 健太郎

二松学舎大学から合格通知をいただき、慣れないスーツに身に纏った四月一日の入学式当日。この日は新年号の発表日でもあり、令和の発表と共に私の大学生としての生活が無事にスタートした。それがついさっきのように思えるが、あれからもう四か月が経過しようとしているのは紛れもない事実だ。そこで、大学生を送る上で重要だと思うことがある。それは時間の使い方である。

大学と高校の違いは何だと聞かれたなら、自由に使える時間だという答えが上位にくることは間違いない。この自由な時間をどう捉えるかによってこの大学生活の内容の濃さが変わってくるはずだ。大学の単位制では一単位の重さが大きく、学修に対する主体的な態度が必要になってくる。単に多くの単位を取れば良いという訳ではなく、学びに要する時間、質が大学では重要視される。だからこそ一年間で履修できる単位に制限があり、所々に空き時間ができる。そうしてできた時間を使って自分で講義を補い、興味を持った部分を詳しく調べるこそ大学での

学び方であり、大学でやるべきことだと思う。たとえ大学を出なかったとしても社会にはちゃんと出られる訳で、大学に入ったからには、年間自分はこの内容の勉強をしてきたと説明ができて、教養のある人が理想だ。また、大学生活における自由な時間を有意義に使う人と何もしない人では大きな差が生じる。前者になれるように時間を有効に活用して、行動を起こしていきたい。

大学の四年間はあっという間であり、直ぐに終わってしまうと聞くことがあるが、この四年間を有意義なものにしていきたいと思うのは私だけではないだろう。二年、三年と学年が上がっていくにつれて多くの自由な時間が得られると思うが、そこを勘違いしないようにしたい。大学に慣れたからといって墮落せず、色々な分野に興味を持ち、私が専攻するであろう国際政治の分野では、関心をより深め、面白いと思えることを見つけて、多くのことを培ってきたい。この二松学舎大学で充実した四年間を過ごすことができたと思えるように。

大学に入学して



国際経営学科

室市 岳洋

大学に入り、生活が大きく変わった。特に変化した点が二つある。初めに、高校に比べ自由な時間が増えた。高校の頃は、学校に決められた時間割で授業を受けていたが、大学では、自分で授業を選ぶ。そのため空きコマが発生する。最初は空き時間ができ、楽だと感じていたが、幾日か過ごす中で、空きコマがただ暇な時間というわけではないということに気づかされた。授業の復習ももちろんのことだが、この空いた時間をどのように活用するかが重要である。時間があるからこそ自分のやりたいことに向けて、何をすべきかとしつかりと把握し、そのために行動しなくてはならないと思う。また、

大学には様々なサービスがあるため、どのようなサービスがあるかを確認し、それを自分に生かすことが大切だと思う。最近までは、就職活動など遠いものだと思っていたが、既に入学してから四カ月経つていて、実際はそんなに時間があるわけではない。だからこそ今のうちから空いた時間を上手く使っていくことが重要である。次に、大学は基本的

に自分の好きな授業を受けることができる。そのため、自分の興味のある内容に精通した教授に話を聞くことができる。今まではそのような機会を得ることはあまり容易ではなかったが大学ではそのような機会に恵まれている。なので前に述べた、空き時間などにそのような機会を生かすべきであると思う。最後に、大学は高校よりも積極性、自主性というものがとても重要である。高校とは違いグループワークなどが増えていくため、積極的に発言をしなくては学びを得ることができない。また自分が中心に立たなくてはならない機会も増えるため、自主性というものも求められる。

以上のように大学と高校とは、大きく変わっていて、特に自由度が増している。これは一見楽になったと思えるが、実際は、自由な分自由さを自分の将来にどのようにつなげるかが重要であり、自分が何をやりたいか、何になりたいかをよく理解した上で行動しなくてはならない。なので自分の目標を定め、その目標のために自由さを生かしたいと思う。

●四年次生で進路未定であれば来室を促してください！

四年次生で進路が未定の場合は、キャリアセンターへの来室を促してください。今も企業からの求人が続々と届いておりますし、連日、企業の採用担当者の来客が途絶えません。「ぜひ二松学舎大学の学生を採用したい」とおっしゃっていたいただいている企業は多数あります。いずれも卒業生が活躍してくれている企業などで、先輩が活躍しております。その卒業生を採用したい、二松学舎大学の卒業生を評価している企業です。求人内容はキャリアセンターで精査し、その上で学生に紹介するようにしています。安心して働くことができます。ぜひ大学に來ている求人を活用してほしいと思います。

進路決定した四年次生につきましては、おめでとうございます。進路が決まった場合は、必ずキャリアセンターに報告するよう、お伝えください。学生の進路状況は文部科学省に報告する義務がございます。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

●三年次生は秋に個人面談です！

企業の採用意欲は高く、人材を確保するために企業は様々な取り組みをしています。その一環でインターシップにも力を入れるところは増えていきます。インターシップは本来は就労体験を学生に提供する、就業感の涵養に寄与する社会貢献の一環なのですが、採用にも繋がるイベントとして、企業も行政も積極的に行なうようになってきました。採用側が例年より前倒しで動きを活発化させているのに合わせ、二松学舎大学では、例年九月に実施している『就活スケジュールガ

アー
リタ
リ
55
キャン
よ
キセ
だ

イダンス』を七月に開催し、学生の活動をサポートしています。夏休みが明けた秋 semester から、学生それぞれの希望の進路実現に向けて、個別のフォローを行ないます。そのきっかけとなるのが、三年次生の『全員個人面談』です。全学生を個別で面談し、考えている進路をヒアリングし、その後の支援に繋がってきます。

思いますので、ご父母の皆さまからも個人面談を受けたかの確認や、キャリアセンターの利用を促していただけると存じます。

登録する重要な面談となります。

進路希望が固まってきた場合に、しっかりと考えて行動し始めるきっかけになる場合もあります。

ご家族で進路について話し始める機会にもなるかと



個人面談の様子

2018年度決算の概要

概要

2018年度二松学舎大学父母会の会員数は、2018年度入学者文学部500名・国際政治経済学部285名計785名、文学部・国際政治経済学部編入学生（3年次生）10名を新たに会員として迎え、2018年10月1日現在2,965名である。

2018年度は予算総額37,535,755円（前年度からの繰り越し金を含む）で、2018年5月26日（土）の定期総会で承認された事業計画に基づき諸事業を推進してきた。

以下にその事業の概要を記載する。

1. 【地区別父母懇談会】

2018年度の地区別父母懇談会は、6月10日（日）の愛知会場・山口会場を皮切りに、群馬・長野・岩手・東京（2回）・高知・福岡の全国8会場で開催した。

各会場には、大学から学長、副学長、文学部長、国際政治経済学部長、学務局長、文学部・国際政治経済学部各教員はじめ学務局（学生支援課・教務課及びキャリアセンター就職支援課）の職員が出席し、懇談を通して大学教職員と会員（父母）との相互理解を図ると同時に、大学の現状、学生の大学生活及び就職の実情、単位修得等勉学の状況及び父母会の活動について説明を行った。

なお、東京（九段校舎）会場では、就職情報会社の専門家による講演等が行われた。
（単位：人）

開催日	6/10	6/10	6/16	6/24	7/8	7/22	7/29	8/4	8/4	計
会場	愛知	山口	群馬	長野	岩手	東京	東京	高知	福岡	295
参加者数	9	3	31	17	13	107	103	4	8	

2. 【教育研究振興助成】

2018年度の教育振興助成は、海外研修学生引率者助成に関しては、英語圏語学研修（ケンブリッジ大学・英国参加者3名、サザンクロス大学・オーストラリア参加者3名、ダブリンシティ大学・アイルランド：参加者合計1名）、中国語圏語学研修（浙江工商大学・中国：参加者16名）、韓国語圏語学研修（高麗大学校・韓国：参加者3名）で実施された語学研修に対して引率者の旅費の一部を助成した。

他に、「就職筆記テスト」・「面接対策」・「面接特訓講座」・「日本語検定」・「SPI対策テストセンター受験」等への助成、新入生教育助成として『新入生へのメッセージ』の冊子を購入し配布した。

3. 【課外活動助成】

狂言研究会、書道部など学外で活動を行った団体に助成を行った。学生顕彰として、30名の学生と2団体に奨励金を支給した。助成は、「課外活動団体助成費取扱い要領」及び「学生顕彰取扱い要領」に基づき、実施している。

4. 【大行行事等への助成】

新入生歓迎式典《4月》にサンドイッチ（飲物含む）を700食、柏祭GUTS《6月》に飲み物100本を支給し、学園祭（創縁祭）《11月》の助成を行った。

5. 【卒業記念パーティー】

3月14日（木）に卒業パーティー（ホテルグランドパレス）を実施した。

6. 【卒業記念品】

卒業記念品として卒業アルバムを贈呈した。

7. 【奨学金】

学生の資格・能力取得育英を目的に、指定した資格取得や教員・公務員等各種採用試験合格者等49名に対して奨学金を支給した。

8. 【弔慰金・災害見舞金】

2018年度の弔慰金・災害見舞金については、会員（父母）7件に対し行った。「父母会弔慰金並びに災害見舞金取扱い要領」に基づいて実施している。

9. 【父母会報の発行】

2018年度は、第101号（2018年7月31日）、第102号（2018年10月20日）、第103号（2019年1月20日）、第104号（2019年3月31日）の計4回発行した。

10. 【外国人留学生支援に関する助成】

外国人留学生の年末（12月1日）に開催した懇親会の経費の一部を助成した。

【特別事業費】

1. <営繕助成等>

観葉植物設備（九段1号館・3号館・4号館のエントランスや共用スペースに配置及び手入れ等）補助・大学施設の補修に対する助成をした。

2. <就職指導支援費>

キャリアセンターの就職支援活動に対して助成した。

3. <事業積立金>

事業積立金は、法人・大学の記念事業推進に協力するため、1993年度より特別会計として積み立てを開始し、周年事業等に予算執行してきた。

4. <創縁祭参加費>

創縁祭の参加経費（無料休憩所）。

5. <食育に関する助成費>

二松学舎松苓会と共同で、学生食堂で「100円朝食」を実施。

6. <予備費>

附属高等学校野球部の第100回全国高等学校野球選手権大会出場に対するお祝いを出した。

◇（学生金庫基金）

現金が緊急に必要となる学生のために、1回につき1万円を無利子で貸し出し（貸し出し期限1カ月）便宜を図っている。

◇（特別会計 事業積立金）

父母会として二松学舎周年事業にむけて、事業積立を行った。

収入の部

（単位：円）

項 目	予算額①	決算額②	比較増減①-②	記 事
1 繰越金	5,514,755	5,514,755	0	前年度繰越金
2 父母会費	31,520,000	31,600,000	△ 80,000	新入学生4万円×（文学部500名+政経学部285名） 編入学生2万円×（文学部4名+政経学部6名）
3 助成費	500,000	500,000	0	大学からの卒業パーティ助成
4 雑収入	1,000	90,169	△ 89,169	受取利息、その他
合 計	37,535,755	37,704,924	△ 169,169	

支出の部

項 目	予算額①	決算額②	比較増減①-②	記 事
1 地区別懇談会費	3,300,000	3,066,017	233,983	会場費・弁当等、教職員出張費
教育研究振興助成				
教員の海外研修助成費	600,000	489,810	110,190	教員2名(松本健太郎准教授・松浦史子准教授)海外研修への助成
海外研修引率者助成費	500,000	500,000	0	海外語学研修学生引率者教職員の旅費の一部助成
就職指導支援経費	1,000,000	776,952	223,048	基礎学力検査・一般常識模試等キャリアセンターの就職指導助成
新入生教育助成費	200,000	179,604	20,396	「新入生へのメッセージ」等購入経費 850部
小 計	2,300,000	1,946,366	353,634	
課外活動助成				
課外活動団体助成費	500,000	119,592	380,408	課外活動団体への助成・全国大会出場助成・学外発表会助成等
学生顕彰費	600,000	200,000	400,000	個人・団体の大会優勝者など大学で推薦する者への表彰費用助成
小 計	1,600,000	819,592	780,408	
4 大行行事等への助成費	1,200,000	1,106,366	93,634	新歓式典・学園祭など大行行事・学生会主催行事への助成
5 卒業記念パーティー	7,500,000	7,116,949	383,051	卒業パーティー運営経費
6 卒業記念品	3,500,000	0	3,500,000	卒業アルバム作成経費
7 奨学金	3,000,000	3,050,000	△ 50,000	父母会の「成長支援型（資格・能力取得育英）奨学金」49名
8 慶弔費・災害見舞金	200,000	74,753	125,247	学生・父母及び専任教員の死亡に対する供花料及び災害見舞金 7件
会報発行				
印刷・制作費	1,100,000	957,432	142,568	父母会報年4回発行、100～103号
発送費	1,300,000	1,139,832	160,168	会報発送100～103号
小 計	2,400,000	2,097,264	302,736	
10 外国人留学生支援に関する助成費	300,000	300,000	0	外国人留学生の学習活動等への支援
事業費合計	25,300,000	19,577,307	5,722,693	
11 通信費	460,000	493,050	△ 33,050	総会資料等発送費、はがき・切手等
12 印刷費	600,000	577,777	22,223	定期総会資料の印刷・製本、返信はがき・封筒等の印刷費
13 会議費	800,000	665,932	134,068	定期総会・役員会等
14 交通費	380,000	246,860	133,140	役員会等へ出席する役員者の交通費
15 消耗品費	100,000	8,195	91,805	事務用品等購入経費
16 雑費	80,000	78,802	1,198	振込手数料、その他
運営費合計	2,420,000	2,070,616	349,384	
1 営繕助成費	300,000	300,000	0	学生施設の緊急を要する補修等及び観葉植物設置補助
2 就職指導支援経費	2,500,000	2,324,700	175,300	キャリアセンターの就職指導（キャリアカウンセラー等委託費）助成
3 事業積立金	2,000,000	2,000,000	0	大学における特別事業への支援のための積立
4 創縁祭参加経費	180,000	111,995	68,005	創縁祭参加関連、喫茶室、ホームカミングデー講演会生花寄贈他
5 食育に関する助成費	550,000	381,400	168,600	
予備費	4,285,755	600,000	3,685,755	
合 計	37,535,755	27,366,018	10,169,737	

差引残高（次期繰越金）	0	10,338,906	-
-------------	---	------------	---

（2019年度二松学舎大学父母会定期総会資料より転載）

2019年度予算の概要

【経常費】

1. 〈地区別父母懇談会〉

2019年度の地区別父母懇談会は、次の日程・地域で開催する。出席については、在住地にかかわらず全国どの会場でも参加できる「オープン参加」形式を今年度も引き続き実施する。

(1) 日程・会場

月	日	曜	開催地	会場	所在地	電話
6	15	土	石川県	金沢市	ホテル金沢 920-0849 金沢市堀川新町1-1	076-223-1111
6	15	土	宮崎県	宮崎市	ホテルメリージュ 880-0805 宮崎市橋通東3-1-11	0985-26-6666
6	22	土	大阪府	大阪市	シュアステイプラスホテル By ベストウェスタン 新大阪 532-0011 大阪市淀川区西中島 2-11-21	06-6886-3939
6	23	日	福島県	福島市	ホテル辰巳屋 960-8031 福島市栄町5-1	024-522-5111
6	29	土	山形県	山形市	山形ランドホテル 990-0043 山形市本町1-7-42	023-641-2611
6	30	日	静岡県	静岡市	ホテルセンチュリー 静岡 422-8575 静岡市駿河区南町18-1	054-284-0111
7	6	土	山梨県	甲府市	ホテル談露館 400-0031 甲府市丸の内1-19-16	055-237-1331
7	7	日	岡山県	岡山市	メルパルク岡山 700-0984 岡山市北区桑田町1-13	086-223-8101
7	13	土	栃木県	宇都宮市	チサンホテル宇都宮 321-0964 宇都宮市駅前通り3-2-3	028-634-4311
7	21	日	東京都	千代田区	九段キャンパス 102-8336 千代田区三番町6-16	03-3216-7427

※東京都(九段キャンパス)会場につきましては、人数調整の関係上、7月21日(日)は東京都・神奈川県在住の方、7月28日(日)は埼玉県・千葉県在住の方を中心にご案内しておりますが、どちらの日程でも参加可能です。

(2) 内容

- 大学の現況報告
- 学生生活・学習状況・就職状況についての説明
- 個別相談等
- その他

2. 〈教育研究振興助成〉

- (1) 教員の海外研修に対する助成
教員の海外研修旅費の一部を助成する。
- (2) 海外研修学生引率者助成
2019年度も中国語圏・英語圏・韓国語圏での語学研修が予定されているので、その旅費の一部を助成する。
- (3) 就職指導支援経費
キャリアセンターが行う学生の就職活動支援事業に助成する。今年度は、「SPI対策講座」「日本語検定」「就職筆記対策」「就職活動中の支援」の助成をする。本年度より、教職課程センターで実施する各種講座についても支援を行う。
- (4) 新入生教育助成
大学で発行している学生生活の手引『キャンパスライフ』を補完する『新入生へメッセージ』(学生生活のモラル・マナーを掲載)を購入し、新入生全員に配布している。継続して実施していく。

3. 〈課外活動助成〉

- 学生のクラブ・サークル等課外活動の実施に伴う経費の一部を助成する。
- (1) 課外活動活性化助成
課外活動団体の練習時間の延長、及び休日に行う対外試合等によるスクールバスの運行等経費の一部を助成する。
 - (2) 課外活動団体助成
クラブ・サークル等課外活動団体の活動費(全国大会出場経費の一部、学外発表会経費の一部等)を「課外活動団体助成費取扱要領(内規)」に従い、助成する。
 - (3) 学生顕彰
ボランティア活動等の社会活動、国際交流、部活動で特に顕著な業績が認められる団体並びに個人を表彰するとともに奨励金を支給する。

4. 〈大学行事等への助成〉

学生団体が主催する「新入生歓迎式典」「学園祭(創縁祭)」等に経費の一部を助成し学内の活性化を図る。

5. 〈卒業記念パーティー〉

2019年度卒業パーティーを開催する。

6. 〈卒業記念品〉

卒業記念品として卒業アルバムを卒業生全員に贈呈する。

7. 〈奨学金〉

- 下記の奨学金を給付する。
- 二松学舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金
- 【対象】奨学金の受給資格は、本学の正規課程に在籍する学部生とし、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- (1) 公立学校教員採用試験合格者
 - (2) 公務員試験合格者
 - (3) 父母会が指定した資格の取得者
- 【給付額】 3万円～15万円(取得した資格や合格した試験に応じて)
- 【対象学年】 1～4年次 【申請時期】 当該年度11月
- 【他制度併用の可・不可】可

8. 〈弔慰金・災害見舞金〉

「父母会弔慰金並びに災害見舞金取扱要領(内規)」に従い、会員(父母)・学生・専任教職員の死亡に対し弔慰金または供花をもって弔意を表す。さらに、火災や自然災害等で学生の自宅やアパート等が被災した場合は、災害の軽重に応じて見舞金を支給する。

9. 〈父母会報の発行〉

大学・父母会の現状、学生生活の状況を会員に伝えるための機関紙「父母会報」を、年間4回発行する。

10. 〈外国人留学生支援に関する助成〉

外国人留学生の支援に関する活動は、1999年度から父母会事業の一環として位置づけ実施している。具体的には、留学生との交流・親睦を図ることを目的とした研修旅行(日本文化探訪プログラム)や、親睦会費用の一部を助成する。

【特別事業費】

1. 〈営繕助成等〉
学生食堂等に観葉植物を設置する。校舎等における緊急を要する補修等に助成する。
2. 〈就職指導支援経費〉
キャリアセンターが行う学生の就職活動支援事業に助成する。
3. 〈事業積立金〉
事業積立金は、法人・大学の記念事業推進に協力するため、1993年度より特別会計として積み立てを始め、周年事業等に予算執行を行ってきた。2019年度は、200万円を計上する。
4. 〈創縁祭参加経費金〉
本学学園祭「創縁祭」に父母会として無料喫茶ルームを運営するため、コーヒー、紅茶及び茶菓等購入費用を計上する。
5. 〈食育に関する助成費〉
2016年度から実施されている「100円朝食」に継続して助成する。

◇〈学生金庫基金〉

現金が緊急に必要となった学生のために、1回につき1万円を無利子で貸し出し(貸し出し期限1カ月)便宜を図っている。本年度もこの制度を継続する。

2019年4月1日～2020年3月31日

(単位:円)

収入の部	項目	予算額	備考
	前年度繰越金	10,338,906	
	父母会費	30,420,000	新入学生40,000円×(文学部489名+政経学部267名) 編入学生20,000円×(文学部4名+政経学部5名)
	助成費	500,000	大学からの卒業パーティー助成
	雑収入	1,000	受取利息
	合計	41,259,906	

(単位:円)

支出の部	項目	予算額	備考
事業費	1 地区別懇談会費	3,300,000	会場費・会議費・教職員出張費
	2 教育研究振興助成		
	2-1 教員の海外研修助成費	600,000	教員2名の海外研修費等の一部助成
	2-2 海外研修学生引率者助成費	500,000	海外語学研修学生引率教員の旅費の一部助成
	2-3 就職指導支援経費	1,000,000	一般常識模擬試験・論文模擬試験等の助成
	2-4 新入生教育助成費	200,000	「新入生へのメッセージ」購入経費
	小計	2,300,000	
	3 課外活動助成		
	3-1 課外活動活性化助成費	500,000	課外活動実施に伴う経費の一部助成
	3-2 課外活動団体助成費	500,000	課外活動団体への助成、全国大会出場助成、学外発表会助成等
3-3 学生顕彰費	400,000	大会優勝者など(個人・団体)	
小計	1,400,000		
常費	4 大学行事等への助成費	1,200,000	・大学行事及び学生会主催行事への助成 ・新入生歓迎式典 ・学園祭
	5 卒業記念パーティー	7,600,000	卒業パーティー運営費
	6 卒業記念品	3,500,000	卒業アルバム
	7 奨学金	3,500,000	
	8 弔慰金・災害見舞金	200,000	学生・父母及び専任教職員の死亡に対する供花料及び災害見舞い金
	9 会報発行		
	9-1 印刷・制作費	1,200,000	父母会報年4回発行
	9-2 発送費	1,400,000	
小計	2,600,000		
10 外国人留学生支援に関する助成費	300,000	外国人留学生の学習活動等への支援	
事業費合計	25,900,000		
運営費	11 通信費	650,000	総会資料発送費・はがき・切手等
	12 印刷費	650,000	定期総会資料印刷、封筒印刷
	13 会議費	700,000	定期総会・役員会等会議費
	14 交通費	380,000	役員会出席役員の交通費
	15 消耗品費	100,000	事務用品費
	16 雑費	80,000	振込手数料等
	運営費合計	2,560,000	
特別事業費	1 営繕助成費	300,000	学生施設の緊急を要する補修等及び観葉植物等設置補助
	2 就職指導支援経費	2,500,000	
	3 事業積立金	2,000,000	
	4 創縁祭参加経費	180,000	
	5 食育に関する助成費	550,000	100円朝食(200円×30食×9日)授業日のみ実施
予備費	7,269,906		
合計	41,259,906		

(2019年度二松学舎大学父母会定期総会資料より転載)

2019年度 二松学舎大学 父母会定期総会議事録

日 時：2019年5月25日（土）13：30～17：00

場 所：九段校舎 中洲記念講堂

講 演：「書に親しむ 一書という海の一滴から」

二松学舎大学 副学長

福島一浩 文学部特別招聘教授

出席者：本年度会員数 2,986名

委任状 1,033名

出席者 71名 合計 1,104名

大学側：江藤学長、福島副学長、瀧田学務局長、

小西教学事務部副部長、馬淵学生支援課長、

竹内学生支援課員

1. 開会の辞 司会 小柴有佳氏

司会者より「本日総会時の会員数は、2,986名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて597名の出席が必要です。本日の出席者は71名。委任状は1,033名。合計1,104名です。よって本日の総会は成立する。」との説明があった。

続いて、宮脇正裕父母会長、江藤茂博学長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名

司会者より「総会の議長は父母会運営細則により会長または会長の指名するものとなっており、会長より細谷文雄さんが指名されているので、細谷議長のもとで議事を進行させたい」との説明があり、細谷氏が席についた。

3. 書記・議事録署名人指名

細谷議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書 記 工藤恵美氏

議事録署名人 加藤典子氏、千澤美千代氏

4. 議 事

◇第Ⅰ号議案〈2018年度事業報告並びに決算〉

宮脇会長より、議案書に基づき概要説明があり、続いて白根会計監査より監査報告があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案〈2019年度役員選出〉

細谷議長から、会則第6条・9条及び父母会運営細則第3条に基づき、総会において役員（会長・会計監査）を選出することとなっているとの説明があり、その選出方法について諮られた。

選出方法が議長に一任されたのを受け、細谷議長から前回同様、大学側に候補者の推薦を依頼したいとの提案があり、承認された。依頼を受けた大学側（瀧田学務局長）より次の各氏が推薦された。

会 長 中澤 稔氏

会計監査 田中清美氏、由川志織氏

細谷議長が大学側から推薦された各氏について諮ったところ異議なく承認された。

続いて中澤新会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ議案〈2019年度事業計画並びに予算〉

中澤新会長より、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ江藤学長より感謝状と記念品が贈呈された。

宮脇正裕氏、安達香里氏、白根真弓氏、鈴木千晶氏

5. 閉会の辞 司会 小柴有佳氏

◇懇親会

九段校舎13階ラウンジに移動し、懇親会が開催された。

17時00分、盛会のうちに終了した。

2019年5月25日

議 長 細谷 文雄 ㊤

議事録署名人 加藤 典子 ㊤

議事録署名人 千澤 美千代 ㊤

書 記 工藤 恵美 ㊤

今年度から学生の授業への出席状況を保証人が閲覧できるようになりました。どのくらいの方が実際に利用されるのでしょうか。

最近では、子どもが塾などに行くと親に入退室の記録が送信されたりしますので、子どもの行動に関する情報を親が入手することに親子ともさほど抵抗はなくなっているのかもしれないですね。だとしてもやはり、大学生はまだ管理監督されて当然、という考えからは少し離れていたいと思っ

ています。物事が順調でない時でも、人に運転を代わられたいせずに自分の人生を自分なりに運転していつてよいかからです。卒業に向けての単位取得の道筋は人それぞれです。出席状況をご覧になる際にはこの前提を大事にしていただけたらと願っています。

色々な困難があっても対処しながらたくましく生きていくには、自分の行動が他者に決められたい強制されたりせず自分自身

学生相談室

だより 105

カウンセラー **奥野 光**

のコントロール下にある、という感覚がとても大切だそうです。大学には、そのような感覚でやっていける機会が沢山あります。授業も、自分なりに取り組み、その成果がどうあれ自分で受け取ることができます。お子さんが4年で卒業できるペースでやっているなら、休まず出席することを義務付けたりするよりは、お子さんのコントロールにまかせるのが素敵なサポートになると思います。

出席を確認してみると、ほとんど大学に通えていない様子が見えてくるかもしれません。事前に出席状況を知っていることでお説教ではない会話ができるなら、学生も自分のことを語りやすくなります。その人がしたい運転をもっとしていただけるために、周りはどういれよいのでしょうか。単位取得が順調でない場合ご家族で話し合うことも出てくると思います。学生相談室ではご家族の話し合いもサポートしていますのでどうぞご利用ください。

二〇一九年度役員

氏名	役職	学年(お子様の所属)
中澤 稔	会長	4年
瀧田 浩	副会長(学務局長)	
細谷 文雄	副会長(広報)	2年
加藤 典子	委員	4年
田中 清美	委員(会計監査)	4年
田中 みか	委員	4年
小柴 有佳	委員(企画・会計)	3年
新郷 尚美	委員(企画)	3年
由川 志織	委員(企画・会計監査)	3年

氏名	役職	学年(お子様の所属)
工藤 恵美	委員(企画)	3年
千澤 美千代	委員(広報)	2年
齋藤 智子	委員(広報)	2年
渡邊 幹雄	委員(広報)	2年
染井 直人	委員	1年
菅波 久美子	委員	1年
塩澤 裕加子	委員	1年
中村 浩子	委員	1年

編集後記

今年も、はや半年が過ぎようとしており、月日の過ぎ行く速さに年齢を感じるこの頃、いよいよ夏本番の到来ですね。父母会員の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

また定期総会には、多くの保護者の皆さまにご出席を頂き、総会が開催されましたこと重ねて感謝申し上げます。総会前には、文学部特別招聘教授、福島一浩副学長より講演を頂きました。演題は、「書に楽しむ―書という海の一滴から―」でした。一筆に込められた思いを想像し感じる事ができ、歴史、文化、書家の人柄など奥深い魅力に感動をしました。

さて、令和元年の始まりに当たり、日本国の隆昌と世界の平和、そして社会の一人一人が幸せを享受できるよう心から願うものであります。新たな令和の時代、情報社会の発展と経済のグローバル化、またAIの進化、社会の国際情勢も更に進むと予想されます。新しい時代において、日本のリーダーシップを担うような学生さんをみんなで創り上げて生きたいと思えます。

結びになりますが、前役員の方々が多大変お疲れ様でした。そして、中澤新会長のもと新役員一同、大学、学生たちのため活動して参ります。父母会会員の皆様におかれましては、父母会活動に深いご理解、ご協力をお願い申し上げます。